

国際留学生 会館から

「大切なことは心と心を繋ぐこと！」 ～チューターとして私たちができること～

愛知県立大学看護学部(2020年3月卒業)
安藤 咲さん



私は2018年9月から2020年2月までチューター*1として国際留学生会館(以下「ISC」)に入居していました。私は何事にも好奇心旺盛で、とりわけ国際交流に関心があり、アメリカの大学への留学経験もあります。現地の学生寮に入居していたとき、チューターがとても親身になってサポートしてくれたので、有意義な留学生活を送ることができました。今度は私自身がその経験を生かし、異文化に囲まれながら日常生活を送る留学生の役に立ちたいと考えチューターに応募しました。

チューターの業務は生活全般の相談や通訳、病院の付き添いなど多岐に渡っていますが、私が一番大切に考えていることは、留学生同士の心と心を繋ぐことです。チューターは私を含め6名いますが、毎月ミーティングを行い、チューター企画のイベントについて知恵を出し合います。それぞれの留学生が持つ言語や文化は多様で、そのような留学生同士をどのようにして繋ぐことができるのかを一番に考えて企画をしています。これまで行ったイベントは歓迎パーティやランゲージ・エクスチェンジ*2、



▲私たちがチューターです。(右から2番目が安藤さん)

スポーツ大会などがあります。様々なイベントを行うなかで、参加した留学生同士がお互いを認め合い、友情を深めてもらえることがチューターとしての一番のやりがいです。

ランゲージ・エクスチェンジでは、言葉だけでなくその国の風俗や習慣も共有することができました。またスポーツ大会では、卓球やバドミントンなどを通じて、皆がひとつになり楽しみながら汗を流しました。

これからも留学生には様々なイベントなどの交流の機会を通じてお互いを理解し、真の友情を育てていただくと同時に、将来帰国した際には母国と日本との懸け橋となっていただきたいと思います。



▲ランゲージ・エクスチェンジにて(右から4番目が安藤さん)

(*1) 留学生の日常生活について助言したり、ISCの事業や運営に協力する学生。
(*2) 日替わりで特定の言語を指定し、その言語により交流会を行う。(英語、中国語、韓国語など)

国際留学生会館とは… NICが2001年から管理・運営している、名古屋市港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

ともくろ

このまちで、共に暮らす外国人たち



この地域で暮らす外国人にスポットを当てて、ご紹介するコーナーです。

実際に体験することで知る日本

グエン・ティ・チンさん(ベトナム出身)



ベトナムの大学で4年間日本語を専攻し、卒業後は日本語の翻訳、通訳の仕事をしていました。日本人の主人とは仕事で知り合いました。昨年の春、主人の転勤に伴い家族で日本へ来ました。子どもはもうすぐ4歳になります。

ベトナムでは日本へ来る実習生に日本語を教える仕事もしていました。愛知や岐阜、三重で働く教え子たちがいるので今も時々会うことがあります。

現在は子育てがメインの生活で、幼稚園で知り合ったママ友との交流が楽しい時間になっています。週1回仲間が集まってヨガをするのですが、とてもリラックスできます。

私の家でママ友にベトナム料理をふるまったり、反対に日本料理を教えてもらったりもしています。ベトナムにいたときから本を見て日本料理を作っていました。実際に彼女たちがやっている方法を知ることができるのはよい勉強になります。これから、日本料理を学ぶために料理教室にも通う予定です。今から楽しみにしています。

日本で子育てをする中で感じるの、お店にキッズスペース

があったり、飲食店に子供用のイスやお子様ランチがあるなど、子どもに対して配慮されていることです。最近では日系企業の進出もあり、ベトナムにもそのような設備のあるお店が増えてきましたが、まだ一般的ではありません。今、ベトナムでは日本の子育てスタイルを紹介する本がたくさん出ています。

将来、子どもがもう少し大きくなったら翻訳や通訳の仕事をしたいと考えています。そのために今、日本語能力検定1級取得に向けて勉強をしています。習った日本語と、実際に日本で使われている表現とは違うと感じることもあるので、日本語を自然に使えるようになりたいと思っています。



▲ママ友とベトナム料理会(前列右端がグエンさん)

途上国の現場で活躍する、地域の国際協力NPO/NGOリーダーにお話を伺います。



～国際協力・ニカラグア編～
明日を担う人たちのために!

テーマ:教育・環境

ニカラグアの会
事務局長 伊藤 幸慶さん

リーダーズ・メッセージ
限界に挑めば誰でもそこから
わかることがある!



ニカラグア北部の町エステリで、夜間成人女性学校への支援と電気事情の改善のため、再生可能エネルギー利用促進に取り組む「ニカラグアの会」事務局長の伊藤さんにお話を伺いました。

1979年のニカラグア革命後、内戦が続き、1985年にアメリカが大きな港を封鎖したため、食料品、医療品の不足を招きました。これにより、困難に陥ってしまった子どもたちの姿は、世界的なニュースとして報じられ、それを知った南山大学の学生たちによって「名古屋ニカラグアに医療品を送る会」が設立されました。同会は、現在も「ニカラグアの会」として現地のNGOとともに支援を続けています。

ニカラグア北部山岳地帯の電気不足解消のため、2011年からソーラーパネルプロジェクトを夜間成人女性学校の職業訓練支援の一環として始めました。当初、現地でパネルの生産・販売をし、再生可能エネルギーの普及を行う計画でしたが、安価な輸入のパネルに押され、採算が取れなくなり工事は断念しました。現在は、日本のパネル製造の専門家から指導を受けた現地住民

が、技術講習会を開き、住民自身でパネルをつくれるよう指導をしています。同会はパネルの材料を支給することで、現地の再生可能エネルギーの普及と住民の環境意識の向上に貢献しています。

また、革命政権時の文芸復興運動で注目を集めるようになった「ニカラグア素朴画」を購入し、日本でその展示会やカレンダーの制作・販売を行い、活動資金の一部に充てています。

豊かな自然環境やフレンドリーな国民性から、現地での活動がしやすい反面、文化・社会が日本とは違うので、住民主体での活動につながる支援の切り口を見つけるのが難しいと感じています。

世界的に、ジェンダー平等社会へと変わりつつありますが、今も続く男性優位な社会(マチズモ)を、どうやって変えていかなど、近隣の国々との交流の中から住民主体で問題解決に進めるよう、見守り、ファシリテートする支援の仕方も今後は考えていきたいです。



▲技術講習会を行う現地の青年

ニカラグアの会
Web <http://www.aichinet.ne.jp/~nicaragu/>
Facebook [nicaraguajapan](https://www.facebook.com/nicaraguajapan) 検索

姉妹友好 都市の広場

2019年度は、名古屋・ロサンゼルス姉妹都市提携60周年の記念イヤーでした。



名古屋の象徴「シャチ」と、ロサンゼルス市の象徴である「グリズリーベア」をイメージした姉妹都市提携60周年記念のロゴマークです。

名古屋・ロサンゼルス姉妹都市提携60周年

伊勢湾台風60年パネル展示



▲パネル展示の様子

8月から10月にかけて、名古屋市内各所で伊勢湾台風60年のパネル展示を行いました。伊勢湾台風は、姉妹都市提携を結んだ1959年4月から5ヶ月後の9月に発生し、その直後から、当時のロサンゼルス市長らの働きかけにより、世界中のどの都市よりも早く、多くの支援が名古屋市に届けられました。

当時の貴重な写真や新聞記事を含めたパネル展示では、その歴史を改めて振り返ることができ、ロサンゼルス市民から差し伸べられた救いの手・友情を今後も語り継いでいく機会となりました。



▲当時の写真

名古屋デー2019



▲「名古屋デー2019」会場の様子

10月26日(土)に、ロサンゼルス市で姉妹都市名古屋の魅力PRするイベント「名古屋デー2019」を開催しました。

会場は、ロサンゼルス市のウェストフィールドセンチュリーシティで、当日は40,000人以上の人々が訪れ、大変な賑わいとなりました。中でも、名古屋コーチンの試食は、行列ができるほどの人気でした。また、和菓子づくり、折り紙、書道、打掛の着付けの日本文化体験コーナーも人気があり、日本文化への関心の高さが感じられました。そのほか、お茶(野点)体験コーナーでは、名古屋の企業の協力により、いろいろえびせんべいが振舞われ、こちらも大人気。名古屋めしのさらなる可能性を感じた一日となりました。



▲絞り体験の様子

「ウェストフィールドセンチュリーシティ」ってどんなところ?

ロサンゼルス的高级住宅街として有名なビバリーヒルズに近い場所にあるショッピングモールです。ロサンゼルス市民のみならず、旅行者も多く、週末(土曜日・日曜日)は、1日に65,000人が訪れる人気スポットです。ロサンゼルスへ行かれる際は、ぜひ訪れてみてください。

名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。ぜひご覧ください。

Web <http://nsca.gr.jp/> Facebook [nagoya.sistercities](https://www.facebook.com/nagoya.sistercities) 検索